

経済建設常任委員会活動報告

当委員会では、10月28日、29日の2日間にわたり、空き家対策への調査研究を目的として山形県鶴岡市及び新潟県燕市の行政視察を行いました。近年の全国的な人口減少により空き家問題は避けては通れない喫緊の課題であり、那須烏山市においても対策を取る必要があります。

鶴岡市では、建設業・司法書士・宅地建物取引業・土地家屋調査士などで構成する「つるおかランド・バンク」を立ち上げ、空き家・空き地が動くそのチャンスに、街の将来を見据えて今から整備する方針で取り組んでいます。実際取り組まれた現地を視察したところ、行政・地権者・宅地開発者の連携が取れており、再開発地は良く整えられていました。

燕市においては、市内の空き家の実数の把握を数回行い、空き家・空き地バンク事業として、解体撤去費や改修費、家財道具等処分の助成や空き家跡地活用促進補助金などのメニューを用意してまちなか資源再開発事業に取り組んでおり、一定の成果を上げていました。

両市ともまだまだゴールは先だとおっしゃっていましたが、この取り組みを積み上げていく事でゴールが近づいてくるのだと思いました。那須烏山市も将来を見据えて取り組みを進めていくべきと感じました。

経済建設常任委員会 委員長 福田長弘



空き家対策の取組について説明を受ける委員